

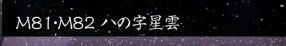
春

の星座解説

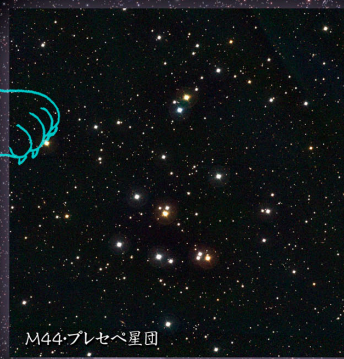
はる
る
せ
い
ぎ
か
い
せ



M51-子持ち銀河



M81・M82 ハの字星雲



M44-プレセペ星団



かみのけ座銀河団

春の大三角

スピカ
(真珠星)

M104-ソンプレロ星雲



おどめ座銀河団



L137座銀河群



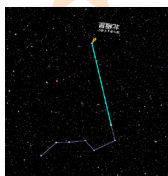
アルファルド

ではさっそく、春の星座と、この天窓から見られるさまざまな銀河たちをご紹介します。いきましよう。

春の星空は、天の川を見わたすことはできませんが、その代わりに、手前の星ぼしにじやまされずに、遠くの銀河まで眺めることができます。いわば、私たちが住む家・銀河系に開いた大きな天窓のようなもの...

春の星空は、天の川を見わたすことはできませんが、その代わりに、手前の星ばしにじゃまされずに、大きな天窓のように遠くの銀河まで眺めることができるのです。

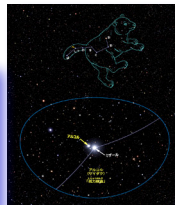
春の星空は、北斗七星から見つけてみましょう



ひしゃくのように並んだ7つの星、「北斗七星」を探るところから始まります。空の高いところにある北斗七星は、方角を示す星、「北極星」を探す星の並びとしても有名です。ひしゃくの水をくむところの二つの星を結んで、その長さを5倍すると行き当たる星が「北極星」。この方角が北になります。

おおぐま座 ～アルコル、M81、M82～

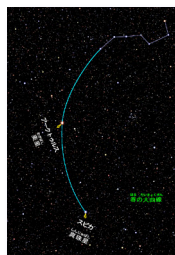
北斗七星はおおぐま座のしっぽに当たる星で、7つの星を「おおぐまのしっぽ」ととどります。そのちいさな「っ」に当たるのが、かすかな



ものという意味の「アルコル」。昔のアラビア語では「サイダク(視力検査)」とも呼ばれていました。大きなおおぐま座、いかにも恐ろしい姿ですが、元々はカリストという可憐な妖精でした。でも、神々の王ゼウスに愛されたため、妻ヘーラの怒りを受けて熊の姿に変えられてしまったのだとか。おおぐま座には「M81」、「M82」という系外星雲があります。カタカナの「ハ」の字に似ていることから「ハの字星雲」とも呼ばれています。

春の大曲線 ～アークトゥルスからスピカへ～

北斗七星の並びを東の方へずっとのばしていくと、明るく輝くオレンジ色の一等星、「アークトゥルス」に行き当たります。麦刈りの頃の夕暮れに天高く輝くので「麦星」とも呼ばれています。さらにカーブをのばしてみると、真っ白に輝く一等星、「スピカ」にたどり着きます。純白の輝きから「真珠星」と呼ばれています。このカーブは「春の大曲線」です。



りょうけん座とおとめ座の銀河たち ～M51、M104～



りょうけん座には、こんな銀河があります。「M51」。二つの銀河がくっついた様子がまるで親子のようなので、「子持ち銀河」というあだ名も付いています。おそらく偶然、関係のない二つの銀河が衝突して、大きい方に小さい方がとらえられてしまったのでしょう。「スピカ」のあるおとめ座には、有名な「M104」という銀河があります。メキシコ人のかぶる帽子に似ていることから「ソンプレロ星雲」とも呼ばれています。

春の大三角 ～アークトゥルス、スピカ、デネボラ～

アークトゥルスとスピカ、そしてもうひとつの星、しし座のしっぽに輝く、ししの尾という意味の「デネボラ」。この3つの星を結んだ大きな正三角形が、「春の大三角」です。



春の銀河団たち ～おとめ座銀河団、しし座銀河群、かみのけ座銀河団～

しし座とおとめ座の間、空の高いところにあるのは、かみのけ座。エジプトの王妃ベレニセが、戦の勝利と王様の無事を祈って祭壇にささげた髪の毛だといわれています。おとめ座、しし座、かみのけ座に共通して見られるのが、これらの銀河団。米粒のようなひとつひとつが銀河系と同じような数千億の星の集まり。このような銀河の群れが、いくつもあるというのですから、本当に宇宙は広いですね。



かに座、うみへび座 ～M44、アルファルド～



ししの鼻先に何だかぼうっとしたものが見えますが、これは、かに座の「M44」、プレセペ



おとめ座銀河団 しし座銀河群 かみのけ座銀河団

星団。「ビーハイブ(蜂の巣)」などと呼ばれています。友達のヒドラがヘルクレスと戦っているとき、加勢しようとして来て一足で踏みつぶされてしまいました。ヒドラはどこにいるのかと、しし座のレグルスから下の方へ探してみると、ぼつんと輝く星が見つかります。その様子から、孤独なもの、という意味の「アルファルド」という名前と呼ばれていますが、ここが、うみへび座、つまりヒドラの心臓に当たります。うみへび座は、ここからずっと東の方へのびた、すべての星座の中で一番大きな面積を持った星座です。頭が昇ってから、しっぽが出てくるまでなんと6時間もかかります。ちょうど冬の星座と夏の星座をつなぐように夜空を渡っていくのです。



はる 春の星座解説 せいざかいせつ

(約18分)